

樋口季一郎中将記念館開設

川島 順 予科21-7
（越谷市）航空7-1

第2次大戦直前、旧満州国でユダヤ人難民数千人を救った陸軍中将樋口季一郎の功績を讃えようと、北海道石狩市に記念館を開設する計画が進められている。



樋口季一郎陸軍中将

1. オトポール事件

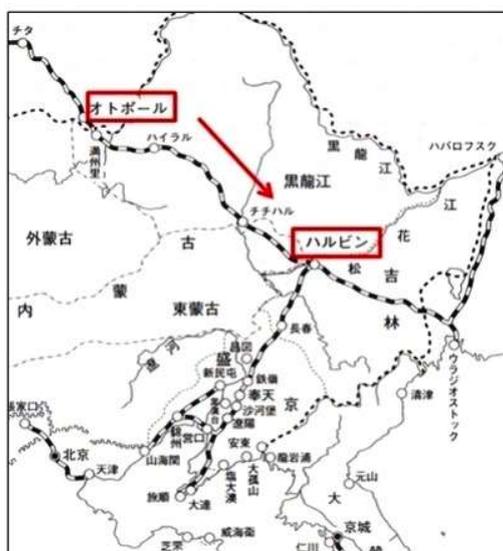
樋口季一郎中将の功績は、秩父136号（H29年7月）に「数千のユダヤ人の命を救った樋口季一郎中将」と題して詳しく紹介されているが、再度その概要を紹介する。

第2次世界大戦の始まる直前の1935年ドイツではヒトラーが政権を掌握し、ユダヤ人を二流市民とする人種差別的なニュルンベルク法が成立し、ユダヤ人の迫害、排斥が組織的に行われるようになった。

その結果、ドイツを追われたユダヤ人の難民がシベリア鉄道を使って満州から上海に向かう大挙押し寄せた。そして、満州

の入り口のオトポール駅で満州官吏によって入国を拒否され足止めされた。

極東地域ユダヤ人協会のカウフマン会長は当時日本関東軍特務機関の関長をしていた樋口中将に入国ビザを発行するよう懇請した。樋口中将は独断で満州国外交部に入国ビザを発行するよう指示し、満鉄の松岡総裁に直接ユダヤ人を輸送する列車の手配を依頼した。その結果数千人のユダヤ人は無事上海に行くことができた。この事件は「オトポール事件」と呼ばれている。



満州地図 オトポール事件要図

戦後、ソ連は樋口中将を戦犯として引き渡しを要求したが、連合軍司令部のマッカーサーはこれを拒否し、戦犯として問われることはなかった。その背後にはニューヨークに本部を置くユダヤ人協会の働きかけがあったと云われている。

2. キスカ島無血撤退作戦

今回記念館の開設の動機となった樋口中将の功績は「オトポール事件」のほかに、終戦直前のキスカ島の無血撤退、及び千島列島占守島の守備戦が挙げられている。

樋口中将は1942年（S17年）札幌に司令部を置く北部軍（後第5方面軍）の司

令官として1943年（S18年）アッツ島
防御・キスカ島撤退作戦及び終戦後ソ連が
侵攻してきた占守島の防衛作戦の指揮をし
た。

アリューシャン列島のアッツ島には約
2千6百名の日本軍守備隊がいたが1943
年（S18年）5月、戦艦・空母約30隻の
艦艇に擁護された1万1千名の米軍に奇襲
され、全員玉砕した。



キスカ島撤収作戦要図

一方キスカ島には約5千2百名の守備隊
が配置されていたが、米軍の飛行機、艦艇
により完全に封鎖され、補給もできなかつ
た。樋口中将は撤退を決断、7月29日、
巡洋艦2隻、駆逐艦6隻に大発によるピス
トン輸送でわずか55分で5千2百名を収容
無事帰還した。

米軍はその撤退を全く気づかず、8月1
5日にキスカ島に上陸したが、極度の緊張
で各所で同士討ちが発生し、死者百名、負
傷者数十名を出す始末であった。

3. 占守島防衛作戦

千島列島最北端の占守島の防衛作戦は、
1945年（S20年）終戦後の8月18日、
ソ連軍は千島列島最北端の占守島に対して
カムチャッカ-半島の最先端から長距離砲
による砲撃を開始した。それに呼応するよ
うに揚陸艇16隻、艦艇38隻よりなるソ連
艦隊が占守島に來襲、上陸を開始した。

占守島には第5方面軍（司令官樋口季一
郎中将）の第91師団約9千名が守備につ
いていた。第5方面軍司令部の命令により
守備隊は反撃を開始し、占守島内部への侵
攻を押さえ、ソ連軍を海岸線に釘付けにし
て激戦を繰り返した。しかし、19日第5
方面軍の命令で長島厚大尉（55期）は軍
使として敵陣を突破し、前線部隊の連隊長
に停戦交渉を行い、8月22日、堤第91師
団長とグリチェコ司令官との間で停戦協定
が締結された。

その結果、ソ連が目論んでいた北海道の
北半分の分割占領は不発に終わった。

4. 樋口中将記念館開設計画

このたびの樋口中将記念館開設の計画
は、北海道古民家再生協会（代表小樽市在
住三上武樹氏）の会員が中心となり、樋口
中将の親族の了解を得て進められている。

記念館は一時期、樋口中将が札幌と小樽
に住んでいたことから、同会員所有の石狩
市八幡町高岡の古民家「旧山谷家」に併設
された石造倉庫を利用して今年の夏頃オー
プンの予定である。



記念館開設予定の石狩市の石造倉庫